経営協議会議事要録

１　日　付　２０２６年3月２３日（月）
２　場　所　ステーションコンファレンス東京６０２会議室（及びＷｅｂ会議）
３　出席者
（学内委員）
冨永総長
青木　滝澤　杉本　植木　張替　湯上　山下　遠山　小谷　各理事
ファブル副学長
（学外委員）
大谷　大津　小野寺　榊　佐々木　蓼沼　樋口　渡邉　正宗
ダッシャー　呉　各委員
（陪席）
福田　田口　各監事
山口　今村　田中　伊豆　各副学長
木村　石井　丸田　各総長補佐
（本部事務機構等）
阿部事務機構長　木村総務企画部長　乳井国際連携部長
芳賀人事企画部長　木村財務部長　古川総務課長
４　欠席者
（学内委員）
宮田理事
（学外委員）
小林　小松　ビール　各委員
５　議　事

○　前回経営協議会（２０２６年１月２３日）議事要録（案）の確認
議長から資料に基づき、上記議事要録（案）の可否について諮り、これを承認した。

○　議　事
議長から、２０２６年１月以降の本学における活動状況について報告があった。

（１）新運営体制
議長から資料に基づき、２０２６年４月からの新運営体制について説明があり、これを確認した。

（２）2026年度予算

議長から本議題については副学長（経営基盤強化・財務管理担当）から説明する旨の発言があり、伊豆副学長から資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

（３）東北大学運営基金の創設

議長から本議題については副学長（経営基盤強化・財務管理担当）から説明する旨の発言があり、伊豆副学長から資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。

・知財戦略の高度化、共同研究の規模拡大が必要である。また、１０年後等の長期的な視点から、基盤研究と社会実装につながる研究の双方を推進し、社会の期待に応える研究成果を積極的に創出し、発信していくことが重要である。
・大学の持続的な発展に向けて、次代を担う優秀な若手研究者を呼び込み、研究環境や良質な研究が行える仕組みを整えることが重要。その際、米国型のファンドによる大学の強化方策だけではなく、ドイツやスウェーデンといった欧州諸国の取組や研究者支援を広く参考にすることがよい。
・運用収益の向上に向けては、今後の世界的な経済情勢の変化やそれに伴うリスクを注視しながら、戦略的に資金運用を強化することが重要である。

（４）総長選考・監察会議の報告

小野寺総長選考・監察会議議長から資料に基づき、総長の任期と再任制度の改正について報告があり、これを確認した。

（５）規程の制定

植木理事から資料に基づき、国立大学法人東北大学組織運営規程の一部を改正する規程ほか、計７件の規程の制定について説明があり、審議の結果、これを承認した。

（６）国際卓越研究大学：体制強化計画の進捗状況

議長、青木理事及び山口副学長から資料に基づき、国際卓越研究大学の体制強化計画の進捗状況について説明があった。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。

・東京拠点を新たに東北大学の「看板」として機能させ、東京圏の多様なステークホルダーを積極的に仙台へ呼び込むなど、首都圏における戦略的なロビーイングや知財獲得、専門人材のリクルートを展開するべき。
・新たに国際卓越研究大学の認定候補が選定されたことを受けて、同大学を

単なる競争相手として捉えるのではなく、相互の補完や共通の課題解決など協調し、かつ共同研究の展開など積極的に連携してはどうか。

・ＬＥＡＰプログラムは、博士課程学生への経済的支援を維持・強化する施策であり高く評価する。本事業の持続可能性を高めるため、民間資金や共同研究費の獲得、企業連携といった成果を測るＫＰＩを導入し、社会や産業界からの更なる寄附や協力を促す仕組みを構築すべき。

・大学ファンドの本来の目的であるイノベーション創出に向け、国際卓越研究大学である東北大学が先頭に立ち先導することが望ましい。また、大企業等の多くが集中する首都圏において、東京の拠点機能強化は効果的であり、同拠点を活用して産学連携に結びつけるなど、戦略的な展開を行うことが重要である。

以　上